

- ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 組み立てる前に電源を入れないでください。
- 照明器具の取付け及び修理は、必ず電気工事店等の専門家に依頼ください。

#### ⚠ 重要

この照明器具の取り付けは必ず電気工事店、専門家に依頼して行ってください。

組み立てる前に、天井の電源スイッチを切ってから取り付けてください。

#### ⚠ 注意

照明器具を箱から取り出す際に、ペーパーシェードを傷つけないよう十分気をつけてください。本体を止めているストッパーを取り除き、本体を取り出してください。

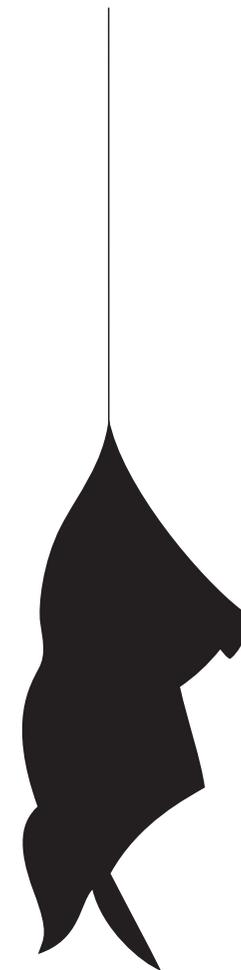
組み立て終わるまで電源に接続しないでください。

## Jimken

デザイン：Dagmer Mombach  
Ingo Maurer and team

光源：ローボルトハロゲン球 12V-50W (GY6.35)

トランス：調光器付電子トランス



Jimken

インゴマウラー 日本総代理店

**StudioNOI**  
スタジオノイ株式会社

東京都港区南青山3-10-7  
青山ホワイトテラス 〒107-0062  
Tel.03-3401-4826 Fax.03-5775-1675

[www.studio-noi.com](http://www.studio-noi.com)

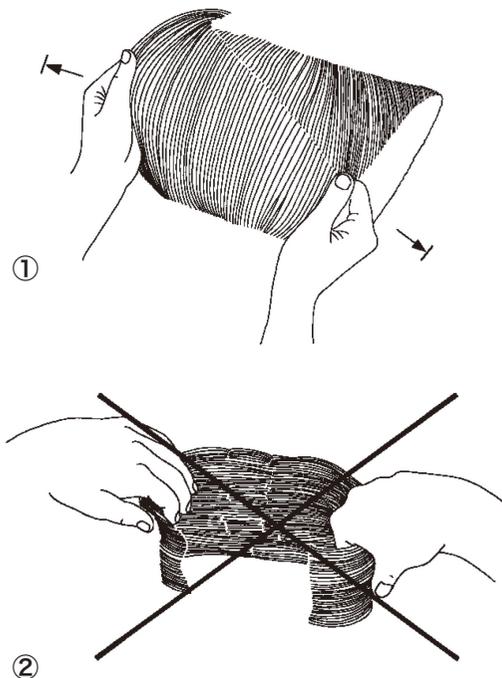
## <ペーパーシェードについて>

器具の和紙は天然の素材で作られたもので、まれに見られる表面のキズは、製造過程で生じたものです。ペーパーシェードは、伝統的な日本の織物の染色法に基づき(最高8段階の処理工程を要する)、その加工法は特許を取得しています。一見同じに見えても、実際にはひとつひとつ微妙に異なっています。

ペーパーを美しく保つには、次のような点にご注意ください。

- 湿気のある所での使用は避けてください。浴室、台所、その他湿気のある室内では使用しないでください。
- 直射日光の当たる場所や乾燥しすぎる場所での使用は避けてください。
- ペーパーシェードは傷つきやすいですが、必要があればそっと引っ張り伸ばすことができます(図①)。ペーパーを伸ばしすぎないでください。伸縮性が失われ、元の形に戻すことができなくなります。
- 「誤った」方向(折り目と反対の方向)にペーパーを折りたたまないようにしてください。繊維をいためることになります(図②)。

場合によっては、シェードが理想的な形になるまでしばらく時間がかかることがあります。表面に触れるとへこみができることがありますが、裏側から指でそっと押すと、へこみが消えて元通りになります。



## <取り付け方法>

### 1. トランスの組み立て(図③)

ドリルで6mmの穴をランプ取り付け位置に開けます。S6のワッシャーを差し込み、ネジとボルトをしっかり締めます。

トランスを持ち、(5)の透明のケーブルの長さをチェックし、長すぎる場合はトランス側の端を切って調整してください。ケーブルはピンと張らずに、ゆるめに下げます。

天井のボルトにトランス(4)をはめ込み、最後までねじり込みます。白いトランスケーブルが天井の電源の方向に向かうようにしてください。

トランスカバー(7)をかぶせ、回して固定してください。

電球の取り付け方を参考に、電球を取り付けてください。

#### ⚠ 注意

指紋などがつきダメージの原因となるので、電球は絶対に素手で触らないでください。

### 2. 天井取り付けボックスの組み立て(図④)

ドリルで6mmの穴を白い取り付けボックス用(8)に開けてください。S6プラグ(9)を差し込み、ボックスの上部分(8)をネジでしっかり天井にはめ込みます。

天井から出ている電源ケーブル(10)を6cmほど天井から出し、先端5cmのカバーを外し、中の電線の先端5mm程度もはがし、端末(11)に繋ぎます。

天井ボックスとトランスの距離を測り、白いトランスケーブルがゆるめに吊されるように調整し、切ります。その先端5mmのカバーをはがし、リード線の先端の端末と繋ぎます。

取り付けボックスのカバーをかぶせます。

### 3. 高さの調節(図⑤)

#### ⚠ 重要

取り付けから時間が経つと、ペーパーシェードが伸び、1/3程度長くなります。

スチールケーブルのループ部分(12)をトランスのC型のフック(12)に引掛けます。

ナットの止めをゆるくしてランプの高さを決め、止めをしっかり締めます。スチールケーブルの先端のフック(16)にペーパーシェードについているシリコンのループ(15)を引掛けます。このソケットホルダーは使用しないのでペーパーシェードの中に入れておいてください。

#### ⚠ 重要

スチールケーブルの余った部分は、後で調節するときが必要となるのですぐにカットしないでください。

スチールケーブルの長さが決まったら、5cm長めに取って切ってください。電源ケーブルのゆるみは、シリコンスリーブ(17)を上下することによって調整できます。(図⑥)

## 4. 電球の取り付け(図⑦)

#### ⚠ 注意

電球やガラス・リフレクターの内側表面を素手で触れないようにしてください。ガラス・リフレクター(18)の付いていないランプは、火災の危険性がありますので使用することはできません。

ガラス・リフレクターの上の保護ストリップを取り外します。片方の手でソケット(19)をしっかり支え、もう片方の手を下から入れてワイヤーケージ(20)を通り越して手を伸ばし、電球を取り付けます。

## 5. ペーパーシェードと分離ロッドの取り付け(図⑧)

1) ペーパーシェードをわずかに傾いたソケット・ホルダーの上に置き、スチール・ケーブルのフック(16)にシリコン・ループ(15)を引掛けま。水平になるように、ソケット・ホルダーを再度調整してください。

#### ⚠ 重要

ソケット・ホルダーは水平になっていなくてはなりません。またペーパーはソケットや電球に触れないようにしてください。

2) 端を固定することにより、分離ロッド(21)をペーパー・ウイングの内部表面にあるシリコンチューブに取り付けます(図⑧)。ペーパー・ウイングが正しく隣接するように下方のペーパーを調整します。

## <電球の交換>(図⑦)

#### ⚠ 注意

電源を切り、完全に器具が冷めたことを確認してください。

電球を取り外す際に、ガラス・リフレクター(マウラー社オリジナル)と一緒に外れる場合があります。リフレクターは元に戻してください。電球やリフレクターの内側表面を素手で触れないようにしてください。

片方の手を上部から入れてワイヤーケージの中のソケットをしっかり持ちながら、もう片方の手を下部から入れて電球を取り外します(図⑦)。電球がソケットにしっかり取り付けられて抜けない場合は、リフレクターの下に指を2本入れ、両側をそっと押し上げると取り外すことができます(図⑨)。

#### ⚠ 重要

ガラス・リフレクターが破損した場合は取り替えてください。

## <クリーニング>

#### ⚠ 重要

シェードのお手入れには、必要に応じて軽い毛はたきや絵筆を使用してください。濡れた布やスポンジ等は絶対に使用しないでください。金属部分は乾いた布で拭いてください。

